

発言No.

19

受付No.

5

令和5年2月13日

14時 35分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 18番

氏名

佐々木 豊治

答弁を求める者

☒市長

☒教育長

☐監査委員

☐選挙管理委員会委員長

(○をつける)

☐農業委員会会長

☐固定資産評価審査委員会委員長

☐公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、物価や燃油高騰に対する市民への支援について

(1) 水道料金の免除や減免の実施について

①これまで水道料金の免除や減免などお願いしましたが、前回も財源や効果に対する疑問などを挙げられ、時間が無く途中でやりとりが終わってしまいました。改めて水道料金の免除や減免について実施すべきと思いますが所見を伺います。

(2) 学校給食費の免除や減免の実施について

①学校給食費については材料費の高騰により、4月からの値上げの方針も示されております。前回、学校給食費の免除や減免について取り上げましたが、特に回答がなかったように思います。浜田市においても対応ができないか伺います。

2、商店街活性化について

先日、党活動の一環で行った各種団体との意見交換会で県の商店街振興連合会さんから支援などの要望を伺いました。県内どこも厳しい状況にはあるようですが、県東部の商店街では地域の特性を生かした取組でお客さんを呼び込み、収益につなげる事例なども伺いました。

- ① 浜田の商店街の現状について伺います。
- ② コロナ禍でイベントなどは少し控えてはられるようですが、商店街活性化への支援策や補助金など、どのようなメニューがあるのか伺います。
- ③ 地域おこし協力隊を導入することにより、商店街を活性化させる新たな取り組みができないか伺います。

3、不登校対策について

(1) 視察先の取組事例について

前回、浜田市での不登校対策の状況や山びこ学級の取組など伺いました。

教育長からは児童生徒が安心して過ごせる居場所環境を整えることがとても大切であるとの話を伺ったところですが、先日、不登校対策に先進的に取組んでおられる自治体を視察し、さらにその思いを深くしたところです。

① 視察先の一つは奈良県大和郡山市の学科指導教室 ASU（アス）の取組で、もう一つは愛知県春日井市の登校支援室の取組です。

いずれも子ども 1 人 1 人に細やかな対応がなされており、今後の浜田市での不登校対策の参考事例に少しでもなればとの思いでとりあげました。

少し内容をお話したいと思います。

大和郡山市の事例は不登校特例校の 1 校で、子どもの状態に合わせ、大きく 2 段階に分かれた対応がなされていました。学校に行けない子に第一段階で「あゆみルーム」、次の段階で学科指導教室「ASU」での授業参加となっております。

あゆみルームは家から出るきっかけの居場所として設置され、さらに 5 段階分けられ活動されております。

次の ASU の段階では、5 教科の他、得意なことに取り組むことで個性を伸ばす「チャレンジタイム」やスポーツの時間や、カウンセラー（臨床心理士）が担当する「ASU タイム」があり、自己理解や肯定感を高めたり、1 人 1 人考え方が違うことに気づくなどの時間としているとのことでした。

進路保障についても独自の取組がなされており、通常は不登校生徒の場合、高校への進学を望んでも進学できる学校は限られる。

ASUで学んだ子はASUでつけた成績で内申書を作成して良いと、奈良県教育委員会から認められ、その子の希望にあった高校を受験できるようになった。これにより、進路選択の幅が広がり、進路に安心感と希望を持って臨めるようになり、社会的自立に向け大きく歩めるようになったとされ、卒業後はほとんどが高校進学へし、そしてほとんどが高校も卒業しているとのことでした。

また、カウンセラー3名の力も大きいとされ、一番の目的は進路保障ではなくて、子ども達が社会で生きていく力をつけてもらうこととされております。

こういったASUの取組について、浜田市で参考になる点も多いと思いますが、所見を伺います。

② 次に愛知県春日井市の登校支援室の取組についてです。

ここは特例校の位置付けではないですが、中学校の普通教室に行けない生徒が過ごせる登校支援教室を三年前から学校内に設置を開始し、今年度、全市立15校への設置をされております。支援室は授業をしないフリースクール型で、学校内の設置は全国でも珍しいとされております。

不登校期間が長くなれば長くなるほど学校復帰や、自立が困難となり、未然防止と初期対応が重要とされ、自立を促すため、支援室に来たら、何をするのか自分で決めさせ、学習機会も提供されております。

登校支援室の職員については、担任の先生をコーディネーターで中心に置かれておりますが、この先生は、その学校で1番力量がある先生を置いておられます。理由は配慮が特に必要なため、また支援室で得たものを学校に還元してもらえようにするためなどで、新たな不登校者が出ないようにするためにとのことでした。

また、支援員も配置されておりますが、支援員さんは一番長く子ども達に寄り添い、教室にいるので、支援室の雰囲気も作るので、支援員さんの役割はとても重要とのことでした。

支援室では「勉強しなさい」という声掛けは絶対しないということで、本人がやる気になるときが必ず来る。

成果として24人の不登校者数が8人まで減少したり、全国で不登校数が大幅に増加するなかで、ほとんど増えていない。

出席率もほぼすべての学校で改善してきた、今後は出席数の上昇も見込んでいるとのことでした。

運営に当たって大切にしてきたことは、「人とのつながりを切らせない」ことで、子どもはいつかやりたいことができれば勉強する機会が必ず来る。それが中学校の段階ではないかもしれないが、人とつながってさえいればSOSを求めるようになったり、協力を求めるようになったりするときがくる。

また、登校支援室はパワーを充電する場所とも言われておりました。

この春日井市の各中学校に設置された登校支援室の取組について、浜田市でも参考にすべきと思いますが所見を伺います。

今回の視察を行うまでは、子ども達に学力を絶やさない、学力をつけることの重要性に少し意識がありましたが、不登校の原因は多種多様で居場所作りも含め、なるべくきめ細かな対応が大切であることを再確認しました。そして人とのつながりを切らさないことがとても重要であることを認識しました。

（２）教育方針の取組について

今回の教育方針に、子どもの居場所づくりについては、青少年サポートセンターにその役割を担わせたいとの内容が示されておりました。

① 青少年サポートセンターについては、40歳までの青年層への支援も含まれ、中学生などの不登校支援にまでは力が入れにくいのではと感じるところですが、中学生の居場所について、新たな対応が必要と感じますが所見を伺います。

② 「山びこ学級」については通級出来ない子どもさんに対しオンラインでの授業を研究していくとのことですが、実現に向けた見通しについて伺います。